

# 経済・金融 フラッシュ

## ユーロ圏消費者物価(3月) — 下押し圧力強い結果に

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

### 1. 結果の概要: 2か月連続の減速

3月31日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏のH I C P (Harmonized Indices of Consumer Prices: EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

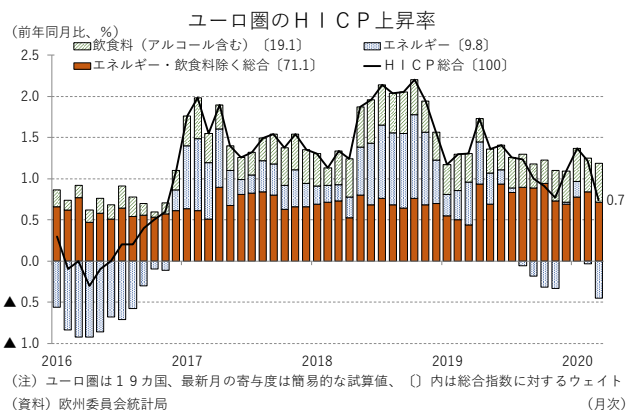
#### 【総合指数】

- ・前年同月比は+0.7%、予想<sup>1</sup>(同+0.8%)より下振れ、前月(同+1.2%)から減速(図表1)
- ・前月比は+0.5%、予想(同+0.6%)より下振れ、前月(同+0.2%)からは加速

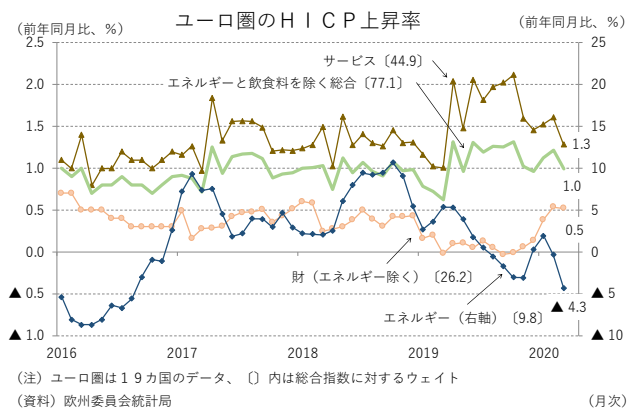
#### 【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数<sup>2</sup>】

- ・前年同月比は+1.0%、予想(同+1.1%)より下振れ、前月(同+1.2%)から減速(図表2)
- ・前月比は+1.1%、前月(同+0.4%)からは加速

(図表1)



(図表2)



### 2. 結果の詳細: 飲食料のみ若干高いものの総じて低水準

図表2を見ると、3月のH I C Pの品目別成長率(前年同期比)は、「サービス」「エネルギーを除く財」「エネルギー」でいずれも減速したことがわかる。O P E Cプラスによる協調減産の決裂を受けた世界的な原油安の影響を受けて、エネルギー価格が前年同期比▲4.3%、前月比▲3.1%と大幅下落したことが、最も大きな要因となった。加えて、新型コロナウイルス(COVID-19)が猛威を

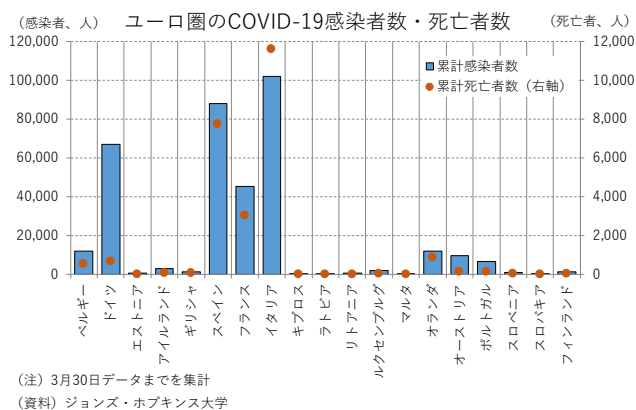
<sup>1</sup> bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

<sup>2</sup> 日本の消費者物価指数のコアコアC P I、米国の消費者物価指数のコアC P Iに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料ものを除いており、日本のコアコアC P Iや米国のコアC P Iとは若干定義が異なる。

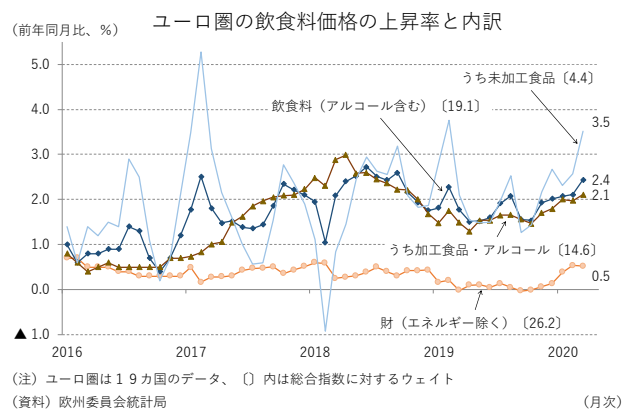
振るっており、感染者数・死亡者数が多いイタリア・スペイン・フランス（図表3）を中心に個人の行動が制限されていることから、財・サービスの価格に幅広く低下圧力がかかっている。

なお、外出制限がなされる中で、むしろ需要が増えると考えられる飲食料については、図表4からわかるように、加工食品・アルコールで前年同月比+2.1%（前月比+0.6%）、未加工食品で前年同月比+3.5%（前月比▲0.5%）と、やや高めの上昇率となっているものの、物価全体を押し上げるほどの強さではない。

（図表3）



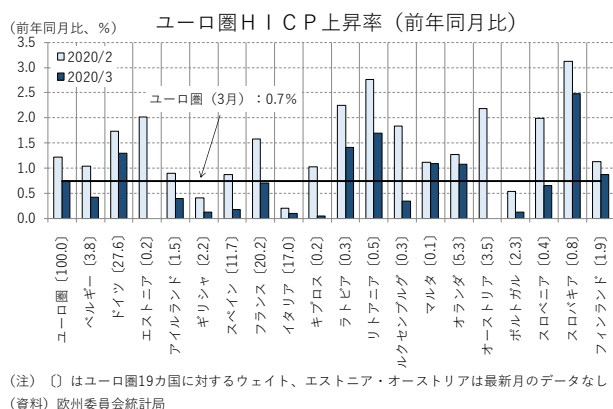
（図表4）



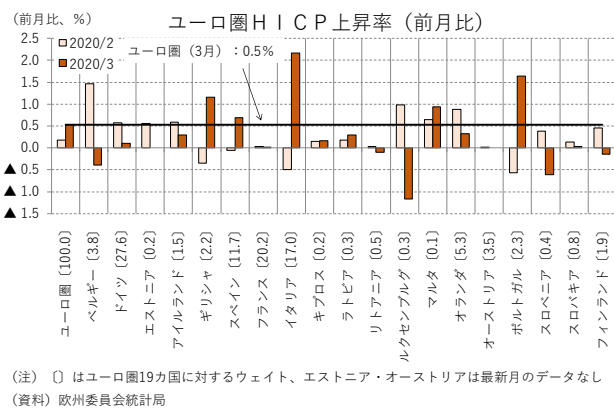
国別のH I C P上昇率では、図表5の通り3月のデータが開示されている17カ国でいずれも前年同期比減速している。前月比上昇率は、イタリア・ポルトガルで高いが、前年同月比での上昇率が低いことからわかる通り、これらはいずれも季節的な要因によるものであり、足元での物価上昇圧力とは言えない（図表6）。

今後についても、原油価格の低迷とコロナ対策としての需要抑制が続くと予想されるため、しばらくは総じて低水準での推移が続くとみられる。

（図表5）



（図表6）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。